

小中一貫教育情報 Vol.1

洞爺湖町では、次代を担う子どもたちのために、義務教育9年間の一貫した教育を行う小中一貫教育の導入を目指しています。

「小中一貫教育」ってどんな学校なの？

「義務教育学校」と「小中一貫型小学校・中学校」の 2つの形態 があります。

小中一貫教育

義務教育学校



9年間
(前期課程6年・後期課程3年)

修業年限

1人

校長

小・中区別なく
1つの組織

教員組織

小中一貫型 小学校・中学校



小学校6年
中学校3年

小・中学校
ごとに1人

小・中ごとに
別組織

小学校・中学校の先生が連携・協力して、義務教育9年間、切れ目のない学びを実現する学校です。



なぜ小中一貫教育が必要なの？

教育内容や学習活動の質の高まりと量の増加

- ・ 小学校で外国語の学習やプログラミング教育が始まっています。
- ・ 小学校の授業時数が20年前と比べると年間約70時間増えています。

子どもの発達の早期化

今の6・3制が始まった昭和20年代と比べると、
身体的な発達が2年くらい早まっています。

心の発達（思春期の到来）も早まっています。

いわゆる「中1ギャップ」

中学校進学に際して、小学校との違いに馴染めなかったり、
新しい環境での学習や生活に対応できなかったりすることで
不登校になる生徒が多くみられます。

小中一貫教育を進めることで、教育の質を高め、
これらの課題を解決していきます。

北海道の小中一貫教育の導入状況

(公立 ～令和5年5月)

- ・義務教育学校 20市町村20校
 - ・小中一貫型小学校・中学校 27市町村128校
- ※胆振管内：6市町が導入。1市が導入予定。



導入を予定・検討している市町村は増えています。

小中一貫教育の効果

(文部科学省：小中一貫教育の導入状況調査（平成29年3月）)



導入している多くの学校では
手ごたえを感じています。

96%

中学校への進学に不安を
覚える児童が減少した

94%

上級生が下級生の手本と
なろうとする意識が高まった

93%

下級生の上級生に対する
あこがれの気持ちが強まった

93%

いわゆる「中1ギャップ」
が緩和された

97%

小・中学校の教職員間で協力して
指導にあたる意識が高まった

小中一貫教育情報 Vol.2

洞爺湖町では、次代を担う子どもたちのために、義務教育9年間の一貫した教育を行う小中一貫教育の導入を目指しています。

～子どもや保護者は、中学校に入学する時、
このようなことを感じています～

子どもの期待と不安

B
E
F
O
R
E

どんな先生がいるのかなぁ…
ちょっと不安だなぁ

先輩は優しいかなぁ…

部活に入りたいけど大丈夫かなぁ

勉強頑張るぞ！
でも…ついていけるかなぁ

定期テストはむずかしいのかなぁ



保護者の思いや願い

新しい環境にうまく馴染んでほしいね

中学校はどんな先生がいるのかしら

先輩や友だちと仲良くやってほしいな

高校進学に向けて勉強頑張ってもらいたいわ



小中一貫教育になるとこうなります

子どもの声



中学校の先生を知っているから安心だね

先輩も分かるし、優しくしてくれるよ

部活もいつも見ていたから大丈夫だよ

少し難しいけど、小学校の時から中学校の先生の授業を受けていたから勉強も頑張れそうだ

保護者の声

小学校の時から中学校の先生との関わりがあるから安心できるね

先生全員が9年間を通じて子どもをしっかりと見てくれてありがたいわ

中学生も一緒に活動すると今まで以上に優しさや思いやりの心が育つね

小学校のうちから中学校の先生が勉強を教えてくれるのね



A
F
T
E
R

小中一貫教育では、このようなことが充実します

切れ目のない連続した学び

- ・各教科の系統性や発展性を踏まえた指導が充実します
- ・9年間の一貫した「ふるさと学習」などが充実します
- ・小中の教員が連携し、早い段階で学習のつまづきを解消することができます



小・中学校の先生が連携・協力した指導

- ・9年間、より多くの教員の目で一人一人を支えることができます
(中1ギャップやいじめ、不登校の未然防止など)
- ・小学校での教科担任制などが充実します
- ・小学校と中学校の教員が今まで以上に連携・協力することで教育力が高まります



6～15歳の子どもたちの交流による 豊かな人間性・社会性の向上

- ・中学生への憧れを持ち、身近な目標となります(小学生)
- ・小さい子への思いやりの心や態度が育まれます(中学生)
- ・多様な異学年交流で、これまでにない経験と思い出をつくる
ことができます(学校行事、児童会・生徒会活動など)



特別支援教育の充実

- ・9年間のきめ細やかな支援により、精神的・肉体的な負担が
軽減されるとともに、一貫した指導の充実が図られます

小中一貫教育の導入には、 次のような心配の声もあります

- 「子どもたちの人間関係が固定化されるのではないか」
- 「小学校高学年におけるリーダー性が発揮されなくなるのではないか」
- 「転出入する児童生徒への対応が必要ではないか」
- 「教員の多忙化や多忙感が増すのではないか」

ご意見、ご質問は、電話・メール等でお問い合わせください。

----- お問い合わせ先 -----

洞爺湖町教育委員会教育推進課

虻田郡洞爺湖町栄町58番地

電話：0142 - 74 - 3009(直通)

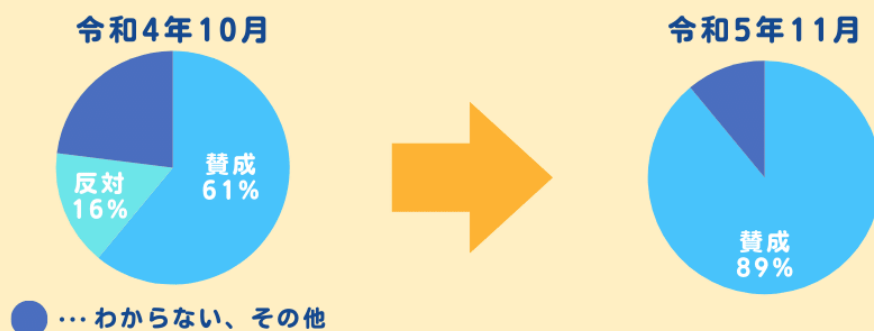
メール：ky_gakkou@town.toyako.hokkaido.jp

小中一貫教育情報 Vol.3

洞爺湖町では、次代を担う子どもたちのために、義務教育9年間の一貫した教育を行う小中一貫教育の導入を目指しています。

洞爺湖町の教育ビジョンの見直しと教育講演会の折に、小中一貫教育に関するアンケートを行いました。

Q1.小中一貫教育を進めることについて



Q2.小中一貫教育のイメージや期待すること

ご意見の多かった上位3つを紹介します。

令和4年10月	令和5年11月
小学校から中学校へスムーズにつなげることができる。	教員の連携によって、より丁寧で継続した指導が充実する。
9年間を見通した特色ある学校づくりができる。	中学校教員の専門性を生かした小学校での授業が増える。
異学年交流ができ社会性などの育成が期待できる。	9年間の系統性や発展性を踏まえることで学力や体力が向上する。

Q3.小中一貫教育で不安なこと

ご意見の多かった上位3つを紹介します。

令和5年
11月

小・中教員の
打合せや
研修の時間を
確保すること。

小・中合同行事の
企画・運営で教員が
今まで以上に
忙しくなること。

特にない。

— これからの予定 —

理解を深めていただくために…

- ・今年度も小中一貫教育の講演会を実施します。
※webへの掲載も予定しています。
- ・小中一貫教育の導入に向けた経過や情報をお知らせいたします。
※webへの掲載も予定しています。

制度の導入に向けて…

- ・学校運営協議会と話し合いを行います。
- ・保護者や地域への説明会を実施します。
- ・制度導入に向けた素案を示します。
- ・パブリックコメントを実施します。
- ・教育委員会としての方向性を決定します。

時期や期日などは
随時お知らせして
まいります。

ご意見、ご質問は、電話・メール等でお問い合わせください。

----- お問い合わせ先 -----

洞爺湖町教育委員会教育推進課

虻田郡洞爺湖町栄町58番地

電話：0142 - 74 - 3009(直通)

メール：ky_gakkou@town.toyako.hokkaido.jp

////////////////////////////////////

小中一貫教育情報 Vol.4

洞爺湖町では、次代を担う子どもたちのために、義務教育9年間の一貫した教育を行う小中一貫教育の導入を目指しています。

9年間の**学び**をつなげます

～分かる・できる楽しい授業による連続性のある教育の推進～

子どもの**育ち**をつなげます

～小・中の指導のよさを取り入れた切れ目のない子どもの育ちの支援～

学校・家庭・地域がつながいます

～目指す子どもの姿の共有等、地域とともにある学校づくりの推進～

小中の**教職員**がつながいます

～互いに顔の見える関係づくりによる小中の教職員の連携の強化～

地域とともにある学校づくりに向けて
～自然、歴史、文化、産業等の地域の
豊富な教育素材を生かして～



小中一貫教育とはどのような教育？

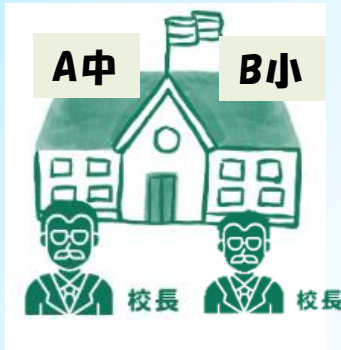
小中一貫教育とは、「小・中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を見通した教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育」のことを指します。

校舎が同じ敷地内にあること(施設一体型)や、校舎が別の敷地にあること(施設分離型)にかかわらず、小中一貫教育を行う学校制度としては、大きく分類すると、「小中一貫型学校」と「義務教育学校」の2つの形があります。

小中一貫教育

「小・中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を見通した教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育」のこと

小中一貫型教育



義務教育学校



小中一貫型教育を通して

保護者や地域
住民の願い

小学校と中学校の円滑な接続

15歳の目指す子
供像を設定・共有

義務教育9年間の学びと育ちの連続性を重視した教育

確かな学力の育成

9年間を支える教
職員の連携・協力

豊かな心の育成

学習意欲の向上

中1ギャップの解消

ご意見、ご質問は、電話・メール等でお問い合わせください。

洞爺湖町教育委員会教育推進課 虻田郡洞爺湖町栄町58番地

電話：0142-74-3009

E-mail: ky_gakkou@town.toyako.hokkaido.jp

小中一貫型教育を通して

保護者や地域
住民の願い

小学校と中学校の円滑な接続

15歳の目指す子
供像を設定・共有

義務教育9年間の学びと育ちの連続性を重視した教育

確かな学力の育成

9年間を支える教
職員の連携・協力

豊かな心の育成

学習意欲の向上

中1ギャップの解消

昨年度の講演会でのアンケートより

Q 今後、洞爺湖町の教育を進めるうえで、どのようなことに力をいれていくことが大切だと思いますか。

- ・子供たちが、高等教育へ進んで行っても、この地域に育てられ、地域を愛する人間に育ってほしい。そして、将来、洞爺湖に戻ってきて欲しい
- ・少子化が進む今、地域を支える人材を地域で育てるシステムが必要である。地域と歩む学校作りを推進し、学校を地域を発展する様な教育に取り組みたい。
- ・講演中にあった「やってみる」の精神があれば良いと思います。先駆者は大変ですが、その点、既にある多く事例を参考に真似ていくだけ。子ども達が救われる町になれると思います。
- ・自分の考えをしっかりとてるように相手の思いやりを持てるような人としての教育。学力だけでなく、体力も。
- ・学校を核にした地域づくり、洞爺湖等の自然を生かしたユニークで魅力ある授業や取り組み、学校づくり。

～次月へ続きます～

ご意見、ご質問は、電話・メール等でお問い合わせください。

洞爺湖町教育委員会教育推進課 虻田郡洞爺湖町栄町58番地

電話：0142-74-3009

E-mail: ky_gakkou@town.toyako.hokkaido.jp

小中一貫教育情報 Vol.5

洞爺湖町では、次代を担う子どもたちのために、義務教育9年間の一貫した教育を行う小中一貫教育の導入を目指しています。

～昨年度の大沼岳陽学校の事例から～

昨年11月の講演会において、七飯町立大沼岳陽学校長の大橋宏朗氏から「小中一貫教育導入校における事例発表」と題して、義務教育学校の紹介をしていただきました。学校の基本方針とメリット・デメリットを紹介いたします。

学校の基本方針

- 1 特色ある教育活動としての「英語教育」「大沼学」の充実
- 2 学力・体力の向上を目指した9年間の系統的・連続的教育活動の充実
- 3 豊かな人間性・社会性の育成を目指したキャリア教育の充実
- 4 子どもの発達段階を考慮し、少人数を生かした「ていねいな指導」の充実
- 5 「地域と共にある学校」を目指した地域連携の充実

令和5年度大沼岳陽学校のメリットとデメリット

メリット

- ・9年間の子どもの育ちを見据え、発達段階に応じた長期的な見通しをもった指導ができる。
- ・9年間を通じて一人の児童生徒に関わる教職員が増え、指導の幅、児童生徒理解が広がる。
- ・教科指導では、小と中のつながりを意識して学べる。
- ・※注 乗り入れ授業により、専門的な授業を受けられる。
- ・新たな教育文化の創造。

デメリット

- ・小学校の卒業式の経験ができない。
- ・7年生になる時に中学生としての意識をつけることが難しい。
- ・行事が多く、参加内容の設定が難しい。
- ・9年生(中学3年生)が低学年の面倒を見ることが多く、上の人達との交流が少ない。
- ・統合により、通学に時間がかかる(スクールバス)
- ・共有スペースの施設設備の工夫。

※注 小中学校の壁を越えて教科の専門性を生かした授業を行うこと

小中一貫教育情報 Vol.6

洞爺湖町では、次代を担う子どもたちのために、義務教育9年間の一貫した教育を行う小中一貫教育の導入を目指しています。

令和6年度 洞爺湖町教育講演会 ～義務教育9年間の教育環境づくりに向けて～

7月22日（月）に洞爺湖温泉の文化センターで開催した教育講演会に、多くの方々に参加していただき、ありがとうございました。

講師はとうや小学校の羽根校長で、伊達市の大滝徳舜警学校の設立に向けて、また小学校と中学校が同じ校舎で生活していく上での工夫や具体的な取り組みについてお話しいただきました。講演後に実施したアンケート結果も紹介しております。皆様からいただいた貴重なご意見を大切に、今後の教育活動に生かしてまいります。



義務教育学校の内容や小中一貫教育についての質問や、より詳しく知りたい点があればご記入ください。

- ・高学年と低学年の相互交流は人間形成にとっても大切だと思う。もちろん地域との交流や世代間交流、外国人との交流も同じだと思う。
- ・期待はしたいが、問題点等はもちろん存在すると思うが、みんなが一体となって作り上げて行えば良いと考える。
- ・違いがよくわかりました。洞爺湖町は、小中一貫教育ですね。
- ・メリットがとても多い様に感じた。

洞爺湖町で目指す小中一貫教育や、義務教育学校等を導入する場合に、心配される点や期待される点があればご記入ください。

- ・学力向上
- ・特に小学生の学びの質が、乗り入れにより高くなるが、中学校教員の負担が増え、受験者数が減るのではないかと思います。
- ・町が小中一貫教育をどの形態でやりたいのかが不透明でわかりにくい。
- ・洞爺小と洞爺中はどうなるのでしょうか。今でも虻田地区と洞爺地区の格差を感じております。虻田小と虻田中で小中一貫教育はスムーズに行くと感じます。温泉小はどうなりますか。現実問題として、具体化していく上でどこまでを考えているのか、町としての見通した案をそろそろ出していきたいと思えます。質の高い教育を目指していく上では、小中一貫教育や義務教育学校は必要だと思いますので、期待しています。
- ・自治体側で十分理解しているのか心配です。やっつけ仕事で現場に丸投げ、予算が無いからと不十分な状態で導入するのではと心配です。
- ・生徒指導(対応)の一貫性。小学校と中学校の先生では、これまでの生徒指導のやり方に違いがあるように思う。また、同一の場面指導で小学低学年と中学高学年のように年の差がある場合、どのような指導(声かけ)をするのか。職員室でのバランスとコミュニケーションが上手く行かなかった時、子どもたちが混乱しないようにしたい。
- ・洞爺地区の位置づけをどうするかだと思います。洞爺湖町として、どういう教育を目指すのか、もうそろそろ示す時期が訪れています。

- 心配なのは、現時点の中学校移動予定が2年後なので、子ども達への説明やどうやって理解してもらうか、そしてスムーズに移動できるように、その前の今からでも子ども達や、教職員の小中の交流や意見交換を密にしてほしいです。
- 中学校移動に伴い、ギツギツの教室数ではなくて、洞爺湖町の財政も厳しいとは思いますが、思い切った増改築で教室数を増やして欲しいです。
- 期待しているのは、今回の説明にもあった、担当教諭の授業が小学生のうちから受けられ、学力向上に繋がってほしいと思います。とりあえず中学校移動だけでなく、最初から小中一貫校にしてほしいです。お願いします。
- 虻小に虻中入る事により、施設の改修費が膨大になる。【トイレの便器の大きさ、水飲み場の高さ、体育館の大きさ、体育道具の違い、器具庫の広さ、グラウンドの広さ等】どこまで改修しどこを改修しないのか、事前に確認する必要があるのでは。
- 中1ギャップの解消
- 地域的な要因で小中一貫校と義務教育学校を使い分けることも必要ではないか。
- 準備期間を十分にとることが必要
- 大滝徳舜警学校の取組、大変参考になりました。義務教育学校のメリットについても十分効果があることもわかりました。虻田小中にあてはめていくと、中学生・小学生の関係性について、現状ではややサイズ感の違いを感じますので、いかにしてファミリー的な関係を築けるかが重要になるかと思います。
- 小学生と中学生の体育館やグラウンドの使い分け
- 今ある建物をリノベーションするとした場合、自由に使える教室の確保、職員室の配置場所、収納スペース等、理想的につくれるのかどうか課題(建て替えが早いが予算大)
- 成長が早い現在子どもたちに対し、専門性の高い教育を受けられることはよい。
- 教師は少なくて済むのは理想だが、教師が働く場所が減ることへの反発はあるだろう。

今後、洞爺湖町の教育を進めるうえで、どのようなことに力を入れていくことが大切だと思いますか。

- 教育の質や専門性の向上
- 少子化が進む中、質の高い教育を推進するには、環境整備が必要です。理科や技術の実験観察に関わる道具や木工、金工、畑の機材、家庭科は、被服と調理もあります。校舎が1つになっても揃えないといけないものにも目を向けてほしいものはありますので、お願いいたします。
- 町内の学校職員と密接な連携を取って行くことが大切だと思います。
- 地元愛(愛着)が持てるような学校生活(時間)を過ごして欲しい。
- 大人になって自分の故郷を誇れる、語れる、宣伝出来る教育を願います。
- 今回の講演でもありましたが、小3・4年生からの担当教諭の授業とありましたが、大滝では社会、理科でしたが、少し難しくなる小3・4年生の算数にも力を入れてほしいです。宜しく願います。
- 自律精神を育む
- 外国語教育の充実
- 義務教育学校の設立を目指す過程で様々な連携、調整が生まれてきますので、具体的な設立計画を早期に示していくことが必要であると感じます。
- 部活動の地域移行
- 都市部の同学年の子どもに比べて、地方の子どもは教育を受ける権利がブアーだと思う。
- 高学年になるにしたがって差は大きくなる一方だと感じる。
- 小中一貫教育を進めていくのであれば、経験者から、もっとデメリットの部分を聞き取り、メリットの方が多くなる様、検証していくのが先にしなければならないことかと思う。

ご意見、ご質問は、電話・メール等でお問い合わせください。

洞爺湖町教育委員会教育推進課 虻田郡洞爺湖町栄町58番地

電話:0142-74-3009

E-mail: ky_gakkou@town.toyako.hokkaido.jp